

雲の手通信

2006年12月

第30号

発行人；茶木 登茂一

====このお便りは私が担当している太極拳教室の皆さんに毎月お届けしています。====

トピックス 「瑞江鶴の会」が地元で舞台出演

「瑞江鶴の会」では11月12日（日）に行われた地元江戸川区の東部地域祭に昨年に引き続いて有志が舞台出演しました。八段錦と二十四式太極拳を演舞し、楊名時太極拳と同会のPRを行いました。同会はずでに21年の歴史を持つ会ですが、最近では新会員もつぎつぎに増えてますます活発な活動を展開しています。



健康妄語録 禅と太極拳

あるテレビ番組で、山田無文老師（1900～1989）の詠まれた歌を聴いて大変感動しました。立派な禅僧であったということぐらいしか知らなかったのですが、少し調べて見ました。（こういうときにインターネットは大変便利な道具です。）

老師は愛知県で生まれ、上京して仏教を学ぶため東洋大学インド哲学科に入学して、仏教学者の河口慧海師に師事しましたが、結核に罹りすぐ故郷に戻りました。ところが同じ病に罹った兄が亡くなってしまい、病気に苦しみ孤独に悩む日々を送るようになりました。そのようなある日庭の隅の南天に吹く風のそよぎに“自分は孤独ではない。大自然、大宇宙の中で万物に支えられて生きているのだ。”と忽然と悟り、その悟りの境地を託したのがこの歌です。

大いなるものにいだかれあることを けさふく風のすずしさに知る

生きる勇気を取り戻した老師は、江戸時代の名僧白隠禅師の「内観法」（丹田呼吸法）などを実践することで奇跡的に健康を取り戻し、それからは禅の普及に貢献して昭和の名僧と呼ばれ88歳の天寿を全うされました。

老師のことを調べてびっくりしたことがいくつかあります。

第一には、河口慧海師に弟子入りしていたということです。同師は、仏教を極めるためにあの明治時代に単身チベットへ潜入したことで有名です。同師のチベット旅行記（1～5）、第2回チベット旅行記（いずれも講談社学術文庫）は、あらゆる困難を強い意志と信仰心によって克服してチベットに潜入し、滞在し、脱出するまでの克明な記録ですが、私の昔からの愛読書のひとつです。2001年に念願のチベットを旅して、同師が滞在していたラサのセラ寺の僧寮を訪れ、また同師がラサへの途上に通った標高4800メートルのカンパラ峠に立った時の感激は今でも忘れ得ないものです。

第二には、山田無文老師の一番弟子がああ河野太通老師（神戸・祥福僧堂師家）であられたということです。河野太通老師は楊名時先生の太極拳の弟子でもあり、またよきご友人でもあられた方で、楊

名時先生のお別れ会でも弔辞を読まれておられます。楊名時先生のご著書「太極 この道を行く」には、当時、河野太通老師は“動中の禅”を求めて太極拳に（つまり楊名時先生に）出会ったこと、また逆に楊名時先生もかねてから座禅には太極拳に通じるものがあると考えておられたので、この出会いとその後の長いご交友は大変意義深いものである、ということが書かれています。人と人の出会いとつながりの玄妙さに改めて思い至りました。

再掲・用語解説 さんせんそうしょう 三尖相照

健康太極拳基本5ヶ条のひとつです。「上肢、下肢、頭部の向かう先を揃える」とされています。たとえば、「蹬脚」で蹴り出したときや「下勢独立」や「海底針」で立ち上がったときなどに求められる姿勢です。もちろん頭部は体躯の中央にあり上肢、下肢は左右に付いているのですから、これを一直線上に揃えようと無理な、窮屈な姿勢にする必要はありません。あくまでも“向かう先”を揃えるということです。言葉を変えれば『(想像上の) 相手をまっすぐ見ながら、脚や手がその体躯に当たっている』状態ということです。

左顧右盼～さこ・うべん～ 【第1話 太極拳の源流を辿る】

1) 武術、格闘技は太古のむかしから

「太極拳」というものは本来武術ですから、その源流を辿ることはやはり「格闘技」というものの長い歴史をまず辿ることになりますが、このような“闘う技術”は当然のことながら、世界のあらゆる地域で、あらゆる文明で存在していたものです。

日本では『相撲』が一番古い格闘技なのでしょう。日本相撲協会のホームページによると、「日本書紀」にある、垂仁天皇（第11代天皇、BC66～AC70?）が当麻蹠速と野見宿祢の「すもう拵力」を天覧した記述などを挙げて、これをもって現在の「相撲」の起源としています。野見宿祢が当麻蹠速を蹴倒して踏み殺したとありますから、実態は蹴ったり突いたり空手か格闘技K-1のようなものだったようです。

中国でも前漢時代の文献には「かくてい角抵」という名前が残されていますし、朝鮮半島の高句麗遺跡にも「すもうすもう」の絵が残されているようですから、日本の「すもう拵力」も他の文化とともにこうして伝来してきたものなのでしょう。

紀元前776年から約1200年続いたという「古代オリンピック」でも、当初は『競走』競技だけだったものが、次第にレスリングやボクシングなどの格闘競技が加えられるようになりましたが、なかでもAC648年の第293回オリンピックから「パンクラチオン」という禁じ手のまったくない格闘技が加えられました。敗者は時として死に至ることもあるという、たいへん過激な競技であったということです。パリのルーブル美術館にもパンクラチオンの選手の青銅の像、それも太極拳の蹬脚（ドンジャオ）にそっくりの蹴り技の像があるそうです。

もちろん中国では先に挙げた「かくてい角抵」以外のさまざまな武術が古代からあったことは、文献や遺跡の壁画などから認められております。あらゆる時代を通じていろいろな武術が生成し、興亡を繰り返してきたことは当然なことです。次号ではまず「中国武術」とは何かということをご説明します。

旅をうたい拳を読む

今月は休載いたします。